



# Sun N1 Service Provisioning System 5.2.1 リリースノート



Sun Microsystems, Inc.  
4150 Network Circle  
Santa Clara, CA 95054  
U.S.A.

Part No: 819-6668-10  
2006年5月

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

U.S. Government Rights Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、および Java は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

サンのロゴマーク、Solaris のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴマーク、および Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。Netscape Navigator は、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation の商標および登録商標です。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. © Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved. ©

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれる郵便番号辞書 (7桁/5桁) は日本郵政公社が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行なっています)。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド』に添付のものを使用しています。

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun N1 Service Provisioning System 5.2.1 Release Notes

Part No: 819-4449-11

# 目次

---

はじめに .....	7
<b>1 Sun N1 Service Provisioning System の新機能 .....</b>	<b>11</b>
Sun N1 SPS 5.2.1 リリースの新機能 .....	11
Sun N1 Advanced Architecture for SAP Solutions .....	11
SAP プラグイン 1.0 .....	12
BEA WebLogic 9 プラグイン 1.0 .....	13
OS Provisioning プラグイン 3.1 の新しいプラットフォームと OS のサポート .....	13
Sun Java Enterprise System Web Server 7.0 プラグインのサポート .....	13
Sun Java Enterprise System Application Server 8.2 ソフトウェアのプラグインサポート ...	14
Sun N1 SPS 5.2 リリースの新機能 .....	14
Sun N1 SPS 公開 Java API .....	15
OS Provisioning プラグイン 3.0 の新しいプラットフォームと OS のサポート .....	15
Sun N1 SPS システムの RedHat Linux OS サポート .....	15
リモートエージェントとローカルディストリビュータの自動アップグレード .....	16
エラーと障害のログの改善 .....	16
差分配備のログの改善 .....	16
変数セットの編集の改善 .....	16
XML スキーマの改善 .....	17
インストール済みコンポーネント間の依存関係を確認するコマンド .....	17
実行履歴の削除に必要なアクセス権 .....	18
SSL キーストアの更新の改善 .....	18
コンポーネントタイプの拡張 .....	18
Sun N1 SPS 5.2 リリースに含まれるプラグイン .....	18
Sun N1 SPS プラグインのパッケージ配布 .....	19
WebLogic 8 プラグインのデモアプリケーション .....	19
Oracle データベースプラグイン 3.0 の改善 .....	19
WebSphere 5.1 プラグイン 3.0 の改善 .....	20

<b>2 Sun N1 Service Provisioning System 5.2 リリースに関する最新情報</b> .....	21
Sun N1 Service Provisioning System 5.2.1 ソフトウェア .....	21
Sun N1 Advanced Architecture のグラフィカルユーザーインターフェイスでリソースグループを一覧表示するときに例外がスローされる .....	21
ローカルディストリビュータとリモートエージェントをアップグレードしようとする とエラーメッセージが表示される .....	22
Sun Java Enterprise System Web Server 7.0 プラグインのサポート .....	22
Sun Java Enterprise System Application Server 8.2 ソフトウェアのプラグインサポート .....	23
<b>3 Sun N1 Service Provisioning System 5.2 の問題</b> .....	25
インストールに関する情報 .....	25
Windows: リソースのチェックインが拒否されることがある (6396403) .....	25
Windows: HTTPS の構成で Windows 2000 のインストールに失敗することがある (6398475) .....	26
最小システム構成要件を満たしていない Solaris システム上のマスターサーバーの起 動で問題が発生する (6395197) .....	26
Windows: ユーザーに適切な権限がないか、不正なパスワードが入力されたときにイ ンストールが失敗する (6394017) .....	27
アンインストールの問題点 .....	28
Windows Master Server の side-by-side アップグレード後、アンインストールが失敗する (6188943) .....	28
アンインストールウィンドウに旧バージョンの Sun N1 Service Provisioning System の バージョン番号が表示される (6189043) .....	28
実行時の問題 .....	28
Windows: データベース最適化の定期的な実行の推奨 .....	29
Backup および Restore コマンドで、マスターサーバーの再起動に失敗する (6398090) .....	30
アクセス権の問題でフォルダの追加コマンドに失敗する (6382198) .....	30
プラットフォームが system#any でない場合にコンテナコンポーネントの作成が失敗 する (6408383) .....	31
入れ子にしたコンポーネントを再インストールすると、そのスナップショットデータ がパージされないことがある .....	31
Red Hat Linux Advanced Server 3 で SSL を使用する場合にシステムがハングアップする ことがある .....	31
IBM AIX リモートエージェントの実行テストで execJava でのプランの実行が 10 分間 一時停止することがある (6313197) .....	32
「Check In Current」処理で、この処理をサポートしないコンポーネントについてのエ ラーが報告されない (5063014) .....	32
Red Hat Linux Advanced Server 3.0 で SSL を使用する場合にシステムがハングアップす	





# はじめに

---

『Sun N1™ Service Provisioning System 5.2.1 リリースノート』では、Sun N1 Service Provisioning System 5.2.1 のリリース直前までに判明しなかったさまざまな情報(インストール関連の問題など)を記載しています。

## 対象読者

このリリースノートは、Sun N1 Service Provisioning System 5.2.1 をインストールして使用するユーザーやシステム管理者を対象にしています。

## 関連マニュアル

Sun N1 Service Provisioning System 5.2.1 をインストールする場合や実際に使用する場合には、必要に応じて次のマニュアルを参照してください。

- 『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 インストールガイド』
- 『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 システム管理者ガイド』
- 『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 オペレーションとプロビジョニングガイド』
- 『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 プランとコンポーネントの開発者ガイド』
- 『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 XML スキーマリファレンスガイド』
- 『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 コマンド行インタフェース (CLI) リファレンスマニュアル』

これらのマニュアルの日本語版は、docs.sun.com Web サイト (<http://docs.sun.com/coll/1139.5?l=ja>) を参照してください。

## マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun の Web サイトでは、以下の追加情報を提供しています。

- マニュアル (<http://jp.sun.com/documentation/>)
- サポート (<http://jp.sun.com/support/>)
- トレーニング (<http://jp.sun.com/training/>)

## 表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用しません。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。  machine_name% you have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	machine_name% su Password:
AaBbCc123	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm filename と入力します。
『』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第5章「衝突の回避」を参照してください。  この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% grep '^#define \ XV_VERSION_STRING'

コード例は次のように表示されます。

- C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

- C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[ ] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は2つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。



# Sun N1 Service Provisioning System の新機能

---

この章では、Sun N1 Service Provisioning System (Sun N1 SPS) ソフトウェアの新機能について簡単に説明します。これらの機能については、次の節で説明します。

- 11 ページの「Sun N1 SPS 5.2.1 リリースの新機能」
- 14 ページの「Sun N1 SPS 5.2 リリースの新機能」

## Sun N1 SPS 5.2.1 リリースの新機能

このセクションでは、Sun N1 SPS 5.2.1 リリースの次の新機能について説明します。

- 11 ページの「Sun N1 Advanced Architecture for SAP Solutions」
- 12 ページの「SAP プラグイン 1.0」
- 13 ページの「BEA WebLogic 9 プラグイン 1.0」
- 13 ページの「OS Provisioning プラグイン 3.1 の新しいプラットフォームと OS のサポート」
- 13 ページの「Sun Java Enterprise System Web Server 7.0 プラグインのサポート」
- 14 ページの「Sun Java Enterprise System Application Server 8.2 ソフトウェアのプラグインサポート」

### Sun N1 Advanced Architecture for SAP Solutions

Sun N1 SPS 5.2.1 リリースには、複雑な SAP 環境をインストールおよび管理するための一連のモジュールである Sun N1 Advanced Architecture (Sun N1 AA) for SAP Solutions ソフトウェアが含まれます。Sun N1 AA ソフトウェアを使用すると、IT オペレータは 1 つの Web ブラウザインタフェースから、リソースとアプリケーションサービスのプールを配備、プロビジョニング、管理、および変更し、環境を分析できます。Sun N1 AA ソフトウェアによって仮想化、アプリケーションとリソースのプロビジョニング、監視、および集中管理が可能で、業務の柔軟性が高まります。

Sun N1 AA ソフトウェアには、次のモジュールがあります。

- **N1 AA マネージャー** - このモジュールは、主要な GUI である Java ベースの Web ブラウザインタフェースです。このモジュールには、機能モジュールに直接関連付けられていない、カスタマイズ、保守、および管理用の基本コンポーネントが含まれます。

- **N1 AA アナライザ** - このモジュールを使用すると、環境内の CPU とメモリーの使用状況を監視および管理できます。N1 AA アナライザでは、SAP 以外のアプリケーションも含め、環境内のすべてのサーバーとアプリケーションの CPU とメモリーの使用状況のデータが継続的に監視、収集、および表示されます。データが収集されると、容量計画のレポートとリソースの使用状況を示す図を表示できます。
- **N1 AA ビルダー** - N1 AA ビルダーは、SAP 環境にあるベアメタルサーバーにオペレーティングシステムを簡単にプロビジョニングできるように設計されています。N1 AA ビルダー内の事前に組み立てられているモデルを使用して、IT オペレータは、多数のデータセンターアプリケーションの多層アプリケーションサービスモデルを構築、構成、および更新できます。モデルには、オペレーティングシステム、パッチ、およびクライアントソフトウェアのモデルがあり、操作はすべて 1 つの GUI から可能です。モデルは保存され、集中管理されます。モデルは環境に合わせて構成できます。
- **N1 AA デプロイヤー** - N1 Advanced Architecture for SAP Solutions は、N1 Service Provisioning System の主要な拡張であり、主要なプロビジョニングと管理の機能を利用して SAP のアプリケーションとビジネスプロセスに固有の高度なカスタマイズを可能にします。N1 AA デプロイヤーモジュールは、アプリケーションサービスのコントローラです。N1 AA デプロイヤーを使用すると、仮想化環境でアプリケーションを起動、停止、および再配置できます。これには、Sun Cluster または SAP Adaptive Computing 環境のアプリケーションが含まれます。SAP システムでは、N1 AA デプロイヤーを使用して新しい SAP アプリケーションインスタンスをインストールするか、既存のアプリケーションインスタンスを削除できます。

Sun N1 AA ソフトウェアについては、次のマニュアルを参照してください。

- 『Sun N1 Advanced Architecture for SAP Solutions 5.2.1 Installation Guide』
- 『Sun N1 Advanced Architecture for SAP Solutions 5.2.1 User's Guide』

## SAP プラグイン 1.0

Sun N1 SPS 5.2.1 リリースには、Sun Cluster、SAP Adaptive Computing (AC)、およびデフォルトの環境で SAP システムを管理できる SAP プラグイン 1.0 ソフトウェアが含まれます。SAP プラグインには、次の作業に使用できるプランとコンポーネントがあります。これらのプランとコンポーネントは、テストされ、サポートされています。

- Sun N1 SPS データベースで SAP コンポーネントを作成および削除する
- すべての SAP コンポーネントを表示する
- SAP コンポーネントのオンラインとオフラインのステータスを確認する
- デフォルトの例外ファイルで SAP アプリケーションサーバーをプロビジョニングする
- カスタムの例外ファイルコンポーネントを作成する
- カスタムの例外ファイルで SAP アプリケーションサーバーをプロビジョニングする
- GDS コンポーネントのサポート

SAP プラグイン 1.0 については、『Sun N1 Service Provisioning System ユーザーガイド (SAP Plug-In 1.0 用)』を参照してください。

## BEA WebLogic 9 プラグイン 1.0

Sun N1 SPS 5.2.1 リリースには、WebLogic Enterprise、Enterprise JavaBeans™ (EJB) 技術、および Web アプリケーションを簡単に取得、構成、および配備できる BEA WebLogic プラグイン 1.0 ソフトウェアが含まれます。WebLogic プラグインには、次の作業に使用できるプランとコンポーネントがあります。これらのプランとコンポーネントは、テストされ、サポートされています。

- WebLogic 9 ソフトウェアを次のシステムにインストールし、構成する。
  - WebLogic ドメインと管理サーバー
  - WebLogic 管理対象サーバー
  - WebLogic クラスタ
- 管理対象サーバーとクラスタを管理するノードマネージャーとして機能する WebLogic マシンを作成する。
- エンタープライズアプリケーション、Web アプリケーション、および Java アーカイブ ファイルをアプリケーションアーカイブとして取得し、配備する。
- 特定のアプリケーションアーカイブファイルがある配備プランをコンテナにグループ化し、複雑なアプリケーションの配備を容易にする。
- アプリケーション間で J2EE ライブラリを共有する。
- データソースとマルチデータソースを作成して、特定のデータベースと接続プールを使用するようにアプリケーションを設定する。
- Java Messaging Service (JMS) サービスを作成し、設定する。

WebLogic 9 プラグインの使用方法については、『Sun N1 Service Provisioning System ユーザーズガイド (BEA WebLogic 9 Plug-in 1.0)』を参照してください。

## OS Provisioning プラグイン 3.1 の新しいプラットフォームと OS のサポート

Sun N1 SPS 5.2.1 リリースでは、OS Provisioning プラグインが更新されています。OS Provisioning プラグイン 3.1 は、次の点に変更されています。

- **SunFire T1000/T2000** システムのプラットフォームサポート - OS Provisioning プラグイン 3.1 を使用して SunFire T1000/T2000 Advanced Lights Out Management (ALOM) システムをプロビジョニングできるようになりました。sun4v アーキテクチャーのサポートがプラグインの変数セットに追加されました。
- **SUSE Linux Enterprise Server 8** プロビジョニングのサポート - OS Provisioning プラグイン 3.1 で SUSE Linux Enterprise Server 8 (SLES8) オペレーティングシステムのプロビジョニングがサポートされるようになりました。

OS Provisioning プラグイン 3.1 の変更点については、『Sun N1 Service Provisioning System ユーザーズガイド (OS Provisioning Plug-In 3.1)』を参照してください。

## Sun Java Enterprise System Web Server 7.0 プラグインのサポート

5.2.1 リリースには Sun Java Enterprise System Web Server 7.0 プラグインが含まれます。このプラグインは、Sun N1 SPS 5.2.1 製品メディアの次のパッケージに入っています。

- SUNWspsws70 (Solaris システムの場合)

- sun-spssws70-1.0-1.noarch.rpm (Linux システムの場合)
- sun-spssws70-1.0-1.msi (Microsoft Windows システムの場合)

Sun N1 SPS 5.2.1 リリース時点では、Sun Java Enterprise System Web Server 7.0 ソフトウェアはまだリリースされていません。プラグインは N1 SPS 5.2.1 リリースに含まれますが、このプラグインは Sun Java Enterprise System Web Server 7.0 ソフトウェアとの適合性がまだ完全に確認されておらず、Web Server 7.0 ソフトウェアのリリースまでサポートされません。

Sun JES Web Server 7.0 プラグインのマニュアルは、Sun JES Web Server 7.0 ソフトウェアのリリース後に <http://docs.sun.com/app/docs/coll/1502.1> で公開されます。

### Sun Java Enterprise System Application Server 8.2 ソフトウェアのプラグインサポート

Sun N1 Service Provisioning System 5.2 と 5.2.1 の各リリースには Sun Java Enterprise System Application Server プラグインが含まれます。このプラグインは、Sun N1 SPS 5.2.1 製品メディアの次のパッケージに入っています。

- SUNWspssas (Solaris システムの場合)
- sun-spssas-3.0-1.noarch.rpm (Linux システムの場合)
- sun-spssas-3.0.msi (Microsoft Windows システムの場合)

Sun N1 SPS 5.2.1 のリリース時点では、このプラグインでは、Sun Java Enterprise System Application 8.1 ソフトウェアのファイルベースの配備がサポートされています。リリース時点では、Sun Java Enterprise System Application Server 8.2 ソフトウェアはまだリリースされておらず、プラグインは Sun Java Enterprise System Application Server 8.2 ソフトウェアとの適合性がまだ完全に確認されていません。Sun Java Enterprise System Application Server 8.2 ソフトウェアおよび Sun Java Enterprise System Application 8.1 ソフトウェアのパッケージベースの配備は、アプリケーションサーバーのソフトウェアがリリースされるまでサポートされません。

Sun JES Application Server プラグインのマニュアルは、Sun JES Application Server 8.2 ソフトウェアのリリース後に <http://docs.sun.com/coll/1502.1> で公開されます。

## Sun N1 SPS 5.2 リリースの新機能

このセクションでは、Sun N1 SPS 5.2 リリースの次の新機能について説明します。

- 15 ページの「Sun N1 SPS 公開 Java API」
- 15 ページの「OS Provisioning プラグイン 3.0 の新しいプラットフォームと OS のサポート」
- 15 ページの「Sun N1 SPS システムの RedHat Linux OS サポート」
- 16 ページの「リモートエージェントとローカルディストリビュータの自動アップグレード」
- 16 ページの「エラーと障害のログの改善」
- 16 ページの「差分配備のログの改善」
- 16 ページの「変数セットの編集の改善」
- 17 ページの「XML スキーマの改善」

- 17 ページの「インストール済みコンポーネント間の依存関係を確認するコマンド」
- 18 ページの「実行履歴の削除に必要なアクセス権」
- 18 ページの「SSL キーストアの更新の改善」
- 18 ページの「コンポーネントタイプの拡張」
- 18 ページの「Sun N1 SPS 5.2 リリースに含まれるプラグイン」
- 19 ページの「Sun N1 SPS プラグインのパッケージ配布」
- 19 ページの「WebLogic 8 プラグインのデモアプリケーション」
- 19 ページの「Oracle データベースプラグイン 3.0 の改善」
- 20 ページの「WebSphere 5.1 プラグイン 3.0 の改善」

### Sun N1 SPS 公開 Java API

Sun N1 SPS 5.2 リリースには、カスタムアプリケーションや他社製品を Sun N1 SPS 環境に統合できる公開 Java API が含まれます。公開 Java API によって、引数と結果が強く型付けされている、現在使用可能なコマンド行インタフェース (CLI) のコマンドを実行できます。この機能は、CLI と機能的に同等で、Sun N1 SPS インフラストラクチャーに直接アクセスしてマスターサーバーの照会と管理が可能です。

Sun N1 SPS 公開 Java API に含まれるクラスとメソッドについては、『Sun N1 Service Provisioning System JavaDoc』を参照してください。

### OS Provisioning プラグイン 3.0 の新しいプラットフォームと OS のサポート

Sun N1 SPS 5.2 リリースでは、OS Provisioning プラグインが更新されています。OS Provisioning プラグイン 3.0 は、次の点が変更されています。

- **RSC** ベースのシステムのプロビジョニングのサポート - OS Provisioning プラグイン 3.0 では、SunFire v480 および v880 の各サーバーファミリなど RSC ベースのシステムのプロビジョニングがサポートされています。
- **OS** プロビジョニングの追加サポート - OS Provisioning プラグイン 3.0 では、次のオペレーティングシステムのプロビジョニングがサポートされています。
  - SPARC システム版 Solaris 8
  - SUSE Linux Enterprise Server 9
  - RedHat AS Linux 4.0 (32 および 64 ビット)
  - Microsoft Windows Server 2003 Standard Edition (32 および 64 ビット)、Enterprise Edition (32 および 64 ビット)、および WebEdition (32 ビット)

詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System ユーザーズガイド (OS Provisioning Plug-In 3.1)』を参照してください。

### Sun N1 SPS システムの RedHat Linux OS サポート

Sun N1 SPS 5.2 リリースでは、Sun N1 SPS のマスターサーバー、リモートエージェント、ローカルディストリビュータ、および CLI クライアントで RedHat Linux 3.0 (64 ビット) および 4.0 (32 および 64 ビット) がサポートされています。

Sun N1 SPS 5.2 リリースでの OS のサポートについては、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 インストールガイド』を参照してください。

## リモートエージェントとローカルディストリビュータの自動アップグレード

新しい `node` コマンドセットを使用して、コマンド行インタフェース (CLI) からリモートエージェントとローカルディストリビュータをアップグレードできます。マスターサーバーを Sun N1 SPS 5.2 リリースに移行したら、`node.au.run` コマンドを使用して特定のホスト、ホストセット、または Sun N1 SPS 環境内のすべてのリモートエージェントとローカルディストリビュータを自動的にアップグレードできます。性能を高めるには、少ない数のホストのサブセットごとに `node.au.run` コマンドを別個に並行して実行します。

詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 コマンド行インタフェース (CLI) リファレンスマニュアル』を参照してください。

## エラーと障害のログの改善

Sun N1 SPS 5.2 のブラウザインタフェースが更新され、プロビジョニングのプランで発生する障害とエラーを一度に表示できるようになりました。「Plans Details Run」ページにプランの対象のすべてのホストのエラーと障害がすべて表示されるようになりました。このため、個々のホストの「Details」リンクを選択してプロビジョニングのステータスを確認する必要がなくなりました。

詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 システム管理者ガイド』および『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 プランとコンポーネントの開発者ガイド』を参照してください。

## 差分配備のログの改善

Sun N1 SPS 5.2 リリースでは、差分配備中の変化に関する詳細情報を確認できるようにリモートエージェントのログのメカニズムを設定できます。`logger_config.xml` ファイルの `<logger>` 要素を編集して次のイベントのログをとることができます。

- 新しいファイルが作成されたかどうか
- 既存のファイルが削除されたかどうか
- ファイルが変更されなかったかどうか

ログの出力はリモートエージェントのホームディレクトリにある `agent/bin/cr_agent.out` ファイルで確認できます。

差分配備のログの設定については、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 システム管理者ガイド』を参照してください。

## 変数セットの編集の改善

Sun N1 SPS 5.2 リリースでは、変数セットの編集と管理用のブラウザインタフェースが次のように改善されています。

- 変数セットの一覧の表示 - コンポーネントの変数セットが以前のようなフラット表示ではなく、一覧表示されるようになり、ナビゲートや編集が容易になりました。この改善によって多数のページをスクロールする必要がなくなりました。

- 変数セットのファイルからのインポートとファイルへのエクスポート - コンポーネントの変数と値を定義したファイルから変数セットをインポートすることで、コンポーネントの変数セットを簡単に更新できるようになりました。また、変数セットをファイルにエクスポートすることで、その変数セットをほかのコンポーネントに使用することもできます。「Variable Settings Edit」画面からアクセスできる新しい「Import From File」と「Download」の各操作を使用して、変数セットをファイルからインポートするか、ファイルにエクスポートできます。
- 変数セットの複製 - デフォルトの変数セットとは異なる変数セットのコピーを作成し、このカスタムコピーを Sun N1 SPS 環境内のほかのオブジェクトと共有できるようになりました。「Component Variable Settings」ページの「Create Copy」リンクを使用して、現在の変数セットを複製し、変数セットの変数の値と名前を編集できます。その後、「Variable Set」ドロップダウンメニューからこのコピーを選択することで、変数セットのこのカスタムコピーをほかのオブジェクトに再利用できます。

これらの改善点については、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 プランとコンポーネントの開発者ガイド』および『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 オペレーションとプロビジョニングガイド』を参照してください。

## XML スキーマの改善

Sun N1 SPS 5.2 の XML スキーマは次のように改善されています。

- `<install>`、`<uninstall>`、および `<control>` の各ブロックの `<return>` ステップと `return` 属性を使用して、特定の制御ブロックの実行を停止し、必要な場合は呼び出し元のステップに値を返すことができます。
- `<assign>` ステップを使用して、以前に宣言されたローカル変数に新しい値を割り当てることができます。このステップを `<install>`、`<uninstall>`、および `<control>` の各ブロックとともに使用して、戻り値をローカル変数の値に割り当てることができます。
- `<execJava>` ステップと `<execNative>` ステップの `<assignError>` と `<assignOutput>` の各子要素を使用して、標準出力または標準エラー streams の値をローカル変数に割り当てるすることができます。
- `<execNative>` ステップの `<assignStatus>` 子要素を使用して、ネイティブ OS コマンドのステータスコードをローカル変数に割り当てることができます。

これらの改善点については、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 XML スキーマリファレンスガイド』を参照してください。

## インストール済みコンポーネント間の依存関係を確認するコマンド

新しい `cdb.ic` コマンドセットを使用して、現在インストールされているコンポーネント間の関係を確認できます。次の 2 つの新しいコマンドを使用して、インストール済みコンポーネント間の依存関係を確認できます。

- `cdb.ic.ldo` - このコマンドでは、指定するコンポーネントが依存するインストール済みコンポーネントを確認できます。
- `cdb.ic.lod` - このコマンドでは、指定するコンポーネントに依存するインストール済みコンポーネントを確認できます。

これらのコマンドについては、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 コマンド行インタフェース (CLI) リファレンスマニュアル』を参照してください。

### 実行履歴の削除に必要なアクセス権

Sun N1 SPS 5.2 リリースでは、実行するプランまたは比較の実行履歴の削除を制限する方法が追加されました。次の2つの方法でユーザーによる実行履歴の削除を許可できます。

- ユーザーを admin グループに割り当てる
- 特定のホストセットでフォルダの Delete Run History アクセス権を有効にする

詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 システム管理者ガイド』を参照してください。

### SSL キーストアの更新の改善

これまでのリリースでは、SSL 認証を使用するリモートエージェントを追加したあとで、SSL キーストアを更新するには、マスターサーバーとローカルディストリビュータを再起動する必要がありました。このリリースでは、マスターサーバーとローカルディストリビュータが別の Sun N1 SPS アプリケーションに接続しようとするときにキーストアの変更が確認されるので、システムを再起動する必要がありません。

詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 インストールガイド』を参照してください。

### コンポーネントタイプの拡張

プラグインにコンポーネントタイプを含めなくても、Sun N1 SPS のコンポーネントタイプを拡張し、N1 SPS 環境でこれらの拡張を検索できるようになりました。

コンポーネントタイプについては、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 XML スキーマリファレンスガイド』を参照してください。

### Sun N1 SPS 5.2 リリースに含まれるプラグイン

Sun N1 SPS 5.2 リリースには、さまざまな他社製のアプリケーションをプロビジョニングできるように、テストされ、サポートされている一連のアプリケーションモデルが含まれます。これらのモデル化されたコンポーネントとプランは、Sun N1 SPS ソフトウェアのプラグインとしてパッケージ化されています。

Sun N1 SPS 5.2 リリースには次のプラグインが含まれます。

- BEA WebLogic 6 と WebLogic 7 Plug-in 2.0
- BEA WebLogic 8 Plug-in 3.0
- Linux Plug-in 2.0
- OS Provisioning Plug-in 3.0
- Oracle App Server 10g Plug-in 2.0
- Oracle 9i と 10g Database Plug-in 3.0
- Solaris Plug-in 4.0

- Sun Java System App Server 8.1 Plug-in 3.0
- Sun Java System Web Server 6.0 Plug-in 3.0
- WebSphere 5.1 Plug-in 3.0
- Windows 2000 Plug-in 3.0

プラグインを使用してこれらのアプリケーションをプロビジョニングする方法については、[N1 Service Provisioning System 5.2 Plug-in Collection](http://docs.sun.com/app/docs/coll/1329.1) (<http://docs.sun.com/app/docs/coll/1329.1>) を参照してください。

### Sun N1 SPS プラグインのパッケージ配布

Sun N1 SPS 5.2 リリースから、プラグインは Sun N1 SPS の DVD にあるネイティブ OS パッケージに含まれるようになりました。プラグインをパッケージで配布することで、Sun N1 SPS 環境内のプラグインのパッチの適用とバージョンの追跡が容易になります。

Sun N1 SPS のプラグインをマスターサーバーにインストールするには、まずシステムにパッケージを追加し、次にプラグインの Java アーカイブ (JAR) ファイルを Sun N1 SPS 環境にインポートします。

プラグインパッケージをマスターサーバーに追加する方法については、[N1 Service Provisioning System 5.2 Plug-in Collection](http://docs.sun.com/app/docs/coll/1329.1) (<http://docs.sun.com/app/docs/coll/1329.1>) にある適切なプラグインのマニュアルを参照してください。

### WebLogic 8 プラグインのデモアプリケーション

WebLogic 8 プラグイン 3.0 には、BEA WebLogic 8 ソフトウェアとカスタムアプリケーションを配備する方法を示すデモアプリケーションが含まれます。Avitek Medical Records デモアプリケーションは、プラグインを使用して次の作業を行う方法を示します。

- WebLogic データベースのデータソースを設定する
- WebLogic 管理対象サーバーの JMS と JDBC のリソースを構成する
- 管理対象サーバーにエンタープライズアプリケーション (EAR) を配備する

Avitek Medical Records デモアプリケーションについては、『Sun N1 Service Provisioning System ユーザーズガイド (BEA WebLogic 8 Plug-In 3.0)』を参照してください。

### Oracle データベースプラグイン 3.0 の改善

Oracle データベースプラグイン 3.0 は、次のように改善されています。

- Start、Stop、および Verify の各コンポーネントプロシージャーを使用して、Oracle 9i または 10g データベースの起動、停止、およびステータスの確認が可能です。
- Oracle 10g データベースプラグインは Oracle 9i データベースプラグインに依存しなくなりました。Oracle 9i データベースプラグインを同じシステムにインストールしなくても Oracle 10g データベースプラグインをインストールし、使用できます。

Oracle データベースプラグイン 3.0 については、『Sun N1 Service Provisioning System ユーザーズガイド (Oracle Database Plug-In 3.0)』を参照してください。

### WebSphere 5.1 プラグイン 3.0 の改善

WebSphere 5.1 プラグイン 3.0 は、次のように改善されています。

- 配備マネージャーのターゲットを使用して既存のデータソースと JDBC 構成を検索し、エクスポートできます。
- このプラグインを使用して、J2C 認証の別名を作成および削除できます。
- WebSphere 5.1 プラグイン 3.0 には、WebSphere 5.1 ソフトウェアとサンプルのオンライン株式売買手数料アプリケーションを配備する方法を示すデモアプリケーションが含まれます。Trade3 デモアプリケーションを使用して次の作業を行うことができます。
  - エンタープライズアプリケーション (EAR) を取得する
  - アプリケーションのデータソースと JMS リソースを構成する
  - アプリケーションをアプリケーションサーバーに配備する

---

注 - Trade3 アプリケーションは Sun N1 SPS 5.2 製品メディアには含まれません。WebSphere 5.1 プラグインのデモアプリケーションを使用するには、WebSphere の Web サイトから Trade3 アプリケーションをダウンロードする必要があります。

---

WebSphere 5.1 プラグインについては、『Sun N1 Service Provisioning System ユーザーズガイド (WebSphere Plug-In 3.0)』を参照してください。

# Sun N1 Service Provisioning System 5.2 リリースに関する最新情報

---

この章では、2006年5月のSun N1 Service Provisioning System 5.2.1 リリースに関する最新情報について説明します。

## Sun N1 Service Provisioning System 5.2.1 ソフトウェア

Sun N1 Service Provisioning System 5.2.1 ソフトウェアには、次のバグと問題点があります。

**Sun N1 Advanced Architecture** のグラフィカルユーザーインターフェースでリソースグループを一覧表示するときに例外がスローされる

N1 Advance Architecture (N1AA) のグラフィカルユーザーインターフェースで「Resource Groups」リンクをクリックすると処理に失敗し、次の例外がスローされます。

```
Application Error
com.iplanet.jato.NavigationException: Exception encountered
during forward
Root cause = [java.lang.NoSuchMethodError: com.sun.n1.sps.model.
install.InstalledComponentBean.getGeneratedVariableSettings
()Lcom/sun/n1/sps/model/component/GeneratedVariableSettings;]
```

このエラーは、Solaris 9 と Solaris 10 の各オペレーティングシステムを実行しているシステムで発生します。

対処方法: 次の手順に従ってください。

1. 次のパッチをダウンロードし、マスターサーバーと CLI クライアントに適用します。  
これらのパッチは <http://sunsolve.sun.com> で入手できます。

システム	オペレーティングシステム	パッチID
マスターサーバー	SPARC システム版 Solaris OS	122989-01
	x86 システム版 Solaris OS	122990-01
CLUI	SPARC システム版 Solaris OS	122991-01
	x86 システム版 Solaris OS	122992-02

- Sun Java Web Console を停止します。

```
# /usr/sbin/smcwebserver stop
```

- N1AA アプリケーションの登録を解除します。

```
# /usr/sbin/smreg remove -a com.sun.web.admin.n1aa_2.2.4
```

- N1AA アプリケーションを登録します。

```
# /usr/sbin/smreg add -a /usr/share/webconsole/n1aa
```

- Sun Java Web Console を起動します。

```
# /usr/sbin/smcwebserver start
```

ローカルディストリビュータとリモートエージェントをアップグレードしようとする  
とエラーメッセージが表示される

「host」 > 「details」 > 「edit」 ウィンドウでホストを編集しているときに、「include remote agent on this physical host」 オプションまたは「include local distributor on this physical host」 オプションを選択してから「update or prepare host with most recent system updates or services」 オプションを選択すると、次のようなエラーが表示されます。

```
Unable to find upgrade packages to upgrade "Remote agent" on host
"masterserver" from version "5.2" to "5.2.1". (042018)
```

対処方法: このエラーを防ぐには、ホストの編集時に「update or prepare host with most recent system updates or services」 オプションを選択しないでください。リモートエージェントまたはローカルディストリビュータを追加したら、「Hosts」 ウィンドウの「Prepare Host」 リンクを使用してシステムサービスを更新します。

### Sun Java Enterprise System Web Server 7.0 プラグインのサポート

5.2.1 リリースには Sun Java Enterprise System Web Server 7.0 プラグインが含まれます。このプラグインは、Sun N1 SPS 5.2.1 製品メディアの次のパッケージに入っています。

- SUNWspsws70 (Solaris システムの場合)
- sun-spssws70-1.0-1.noarch.rpm (Linux システムの場合)
- sun-spssws70-1.0-1.msi (Microsoft Windows システムの場合)

Sun N1 SPS 5.2.1 リリース時点では、Sun Java Enterprise System Web Server 7.0 ソフトウェアはまだリリースされていません。プラグインは N1 SPS 5.2.1 リリースに含まれますが、このプラグインは Sun Java Enterprise System Web Server 7.0 ソフトウェアとの適合性がまだ完全に確認されておらず、Web Server 7.0 ソフトウェアのリリースまでサポートされません。

Sun JES Web Server 7.0 プラグインのマニュアルは、Sun JES Web Server 7.0 ソフトウェアのリリース後に <http://docs.sun.com/app/docs/coll/1502.1> で公開されます。

### Sun Java Enterprise System Application Server 8.2 ソフトウェアのプラグインサポート

Sun N1 Service Provisioning System 5.2 と 5.2.1 の各リリースには Sun Java Enterprise System Application Server プラグインが含まれます。このプラグインは、Sun N1 SPS 5.2.1 製品メディアの次のパッケージに入っています。

- SUNWspssas (Solaris システムの場合)
- sun-spssas-3.0-1.noarch.rpm (Linux システムの場合)
- sun-spssas-3.0.msi (Microsoft Windows システムの場合)

Sun N1 SPS 5.2.1 のリリース時点では、このプラグインでは、Sun Java Enterprise System Application 8.1 ソフトウェアのファイルベースの配備がサポートされています。リリース時点では、Sun Java Enterprise System Application Server 8.2 ソフトウェアはまだリリースされておらず、プラグインは Sun Java Enterprise System Application Server 8.2 ソフトウェアとの適合性がまだ完全に確認されていません。Sun Java Enterprise System Application Server 8.2 ソフトウェアおよび Sun Java Enterprise System Application 8.1 ソフトウェアのパッケージベースの配備は、アプリケーションサーバーのソフトウェアがリリースされるまでサポートされません。

Sun JES Application Server プラグインのマニュアルは、Sun JES Application Server 8.2 ソフトウェアのリリース後に <http://docs.sun.com/coll/1502.1> で公開されます。



## Sun N1 Service Provisioning System 5.2 の問題

---

この章では、すでに判明している Sun N1 Service Provisioning System 5.2 の問題について説明します。

- 25 ページの「インストールに関する情報」
- 28 ページの「アンインストールの問題点」
- 28 ページの「実行時の問題」
- 33 ページの「Windows 2000 プラグインに関連する問題」
- 34 ページの「BEA WebLogic プラグインに関連する問題」
- 35 ページの「地域対応の問題」
- 36 ページの「アップグレードの問題点」

### インストールに関する情報

このセクションでは、インストールに関連する既知の問題について説明します。

#### **Windows:** リソースのチェックインが拒否されることがある (6396403)

リソース空間の管理方法の最近の変更に伴い、マスターサーバーリソースリポジトリのサイズの設定に使用される変数の名前と機能が変更されています。このため、デフォルトの構成ファイルを変更する必要があります。

新しい変数、`rsrc.minMSRepoVolFreeSpace` は、リソースのチェックインを拒否するしきい値となる、使用可能なディスク領域の最小バイト数を指定します。

`rsrc.minMSRepoVolFreeSpace` に値が指定されていない場合、マスターサーバーは、ディスク全体になるまで、必要な量のディスク領域を使用できます。

対処方法: Windows マスターサーバー上で、構成変数 `rsrc.maxMSRepoSize` を手動で削除し、新しい構成変数 `rsrc.minMSRepoVolFreeSpace` を追加します。両方の変数とも、マスターサーバー上のリソースディスク領域の管理に関係しています。

### Windows: HTTPS の構成で Windows 2000 のインストールに失敗することがある (6398475)

Windows システムへの Sun N1 Service Provisioning System 5.2 マスターサーバーのインストールで、「I Am Ready to Specify the HTTPS configuration now」オプションを選択すると、インストールに失敗することがあります。このオプションを選択すると、インストーラから、keystore ファイルのパスと keystore パスワードの入力が求められます。このときに、次のエラーがスローされて、インストールに失敗することがあります。

```
Error 1720: There is a problem with this windows installer package. A script required for this install to complete could not be run. Contact your support personnel or package vendor.
```

このエラーの原因としては、次のことが考えられます。

- keystore ファイルに指定したファイルパスが無効
- keystore ファイル用に指定したパスワードが無効

対処方法: このエラーを回避するには、次のことを確認します。

- ファイルパスが有効で、アクセス可能である
- ファイルの種類が有効な keystore ファイルである
- keystore ファイルに指定されたパスワードが有効である

「I am ready to specify the HTTPS configuration now」オプションではなく、「I will specify the HTTPS configuration after the install」オプションを選択して、キーストアの構成をあとで行うこともできます。

詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 インストールガイド』の「HTTPS 接続のキーストアファイルとキーストアパスワードの作成」を参照してください。

### 最小システム構成要件を満たしていない Solaris システム上のマスターサーバーの起動で問題が発生する (6395197)

N1 SPS マスターサーバーは、PostgreSQL データベースを使用します。PostgreSQL の起動には、共有メモリーセグメントが必要です。PostgreSQL の共有メモリーセグメント要求が使用可能なメモリーを超えていると、データベースの起動に失敗し、コンソールに次のエラーメッセージが出力されます。

```
Error! Failed to initialize the database (exit value was 1). Exiting..
```

```
The installation of the Master Server is incomplete. It can be removed by using the following command:
```

```
# pkgrm SUNWspms SUNWspsc1
```

また、db エラーログには、次のようなメッセージが含まれます。

```
IpcMemoryCreate: shmget(key=5432001, size=426688512, 03600) failed: Not enough space
```

マスターサーバーのインストール中は、共有メモリーを使用しているほかのすべてのプロセスを停止させることを推奨します。物理 RAM のアップグレード後もマスターサーバーをインストールできない場合は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 インストールガイド』の第 10 章「Sun N1 Service Provisioning System 5.2 へのアップグレード」を参照してください。この章では、マスターサーバーを、このマシンから最小システム要件を満たしている別のマシンに移行するための手順が説明されています。

**対処方法:** この問題を回避するには、システムの物理 RAM を増設してください。最小システム構成要件を満たしていないシステムにマスターサーバーをインストールすることはできません。

マスターサーバーの最小システム構成要件は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 インストールガイド』の「マスターサーバーのハードウェア要件」に記載されています。

また、マスターサーバーのインストールは成功したが、共有メモリーの制約で起動に失敗する場合は、次のいずれか一方または両方の方法で、マスターサーバーの共有メモリー要件を緩和することができます。

- postgres 構成ファイル  
\$BASEDIR/N1\_Service\_Provisioning\_System\_5.2/server/postgres/data/postgresql.conf  
内の max\_connections および shared\_buffers パラメータの値を小さくする。  
max\_connections を 32、shared\_buffers を 8,000 に設定します。
- \$BASEDIR/N1\_Service\_Provisioning\_System\_5.2/server/config/config.properties  
ファイル内の db.maxconnections プロパティを 30 に減らす。

**Windows:** ユーザーに適切な権限がないか、不正なパスワードが入力されたときにインストールが失敗する (6394017)

Windows システムにマスターサーバー、リモートエージェント、またはローカルディストリビュータをインストールするときのエラーです。Other Account で Windows サービスを実行するようにした場合は、Log on as a service 権限を持つユーザー名を入力する必要があります。無効なパスワードが入力されるか、ユーザー名に Log on as a service 権限がない場合、インストールされたサービスの起動に失敗します。

サービスの起動に失敗した場合は、状況に応じてエラーメッセージが表示されます。

- マスターサーバーの場合  
データベース設定を行うには、postgres サービスが実行されている必要があるため、リブート後にインストールが失敗します。Other Account に指定された資格情報が無効なため、postgres サービスの起動に失敗して、インストールがハングアップし、次のエラーメッセージが表示されます。  
  
At least one service or driver failed during system startup. Use Event Viewer to examine the event log for details.
- リモートエージェントの場合  
Error 1920.Service cragent (cragent) failed to start. Verify that you have sufficient privileges to start system services.
- ローカルディストリビュータの場合

Error 1920.Service crdistributor (crdistributor) failed to start. Verify that you have sufficient privileges to start system services.

このエラーは、無効なパスワードが入力されたか、ユーザー名に Log on as a service 権限がないために発生します。ユーザー名の妥当性検査では、コンピュータ上にそのユーザーが存在するかどうかだけが検査されます。そのユーザーのパスワードが有効かどうか、あるいはユーザー名に「Log on as a service」権限があるかどうかの資格検査は行われません。

対処方法: このエラーを回避するには、次のいずれかの対処をします。

- Other Account に入力するパスワードが有効であること、またユーザー名に Log on as a service 権限があることを確認する。
- Other Account オプションではなく、System Account オプションを選択する。この場合、ユーザー名とパスワードの入力は必要ありません。インストールは継続され、SYSTEM ユーザーでサービスが実行されます。

## アンインストールの問題点

このセクションでは、アンインストールに関連する既知の問題について説明します。

### Windows Master Server の side-by-side アップグレード後、アンインストールが失敗する (6188943)

Windows Master Server の side-by-side アップグレードを行い、即座にアンインストールを試みると、アンインストールは失敗します。アンインストールを確実に行うには、手動の介入とリブートが必要な場合があります。

対処方法: Master Server のアンインストールを行う前に Windows コントロールパネルの Services アプリケーションから Master Server サービスを停止してください。アンインストールが完了した時点では、Master Server サービスはまだ残っています。マシンをリブートし、Windows コントロールパネルの Services アプリケーションから Master Server サービスのエントリを削除してください。

### アンインストールウィンドウに旧バージョンの Sun N1 Service Provisioning System のバージョン番号が表示される (6189043)

Sun N1 Service Provisioning System Windows バージョンのローカルディストリビュータまたはリモートエージェントを新バージョンにアップグレードしたあとでそのローカルディストリビュータまたはリモートエージェントをアンインストールすると、アンインストールウィンドウのタイトルに古いバージョン番号が表示されます。

対処方法: アンインストールプログラムは正常に動作しています。タイトルの不正表示は無視してください。

## 実行時の問題

この節では、判明している実行時の問題について説明します。

## Windows: データベース最適化の定期的な実行の推奨

データベース最適化を定期的に行わないと、パフォーマンスが低下します。

対処方法: データベース最適化タスクを手動でスケジューリングしてください。

これは、2段階からなる作業です。

---

注- マスターサーバー上で次の作業を行います。

---

### 1. データベース最適化スクリプトの作成

マスターサーバーのインストール先の `server\bin\` ディレクトリに、`file_name.cmd` という名前で新しい Windows コマンドファイルを作成します。この `file_name.cmd` ファイルに次のテキストをコピーします。

```
REM No changes need to be made to the script after this line
cd %SPS_MS_DIR%\bin
..\cygwin\bin\bash.exe roxdbcdb vacuumdb -d rox
```

### 2. スケジューリング

- a. 「Start」 ⇒ 「Settings」 ⇒ 「Control Panel」 ⇒ 「Scheduled Tasks」を選択します。
- b. 「Scheduled Tasks」フォルダ内の「Add Scheduled Task」をダブルクリックして、「Task Scheduler」ウィザードを起動します。「Next」をクリックします。
- c. 「Browse」をクリックし、「Select Program To Schedule」ダイアログボックスを開きます。`optimizedb.cmd` ファイルに移動します。
- d. タスクの実行回数を選択します。

タスクは毎日実行することを推奨します。以降の画面でのオプションは、選択内容によって異なります。以下の手順では、日単位オプションが選択されたことを前提にしています。
- e. タスクの実行時刻を入力します。「Next」をクリックします。

---

注- データベース最適化タスクは、システムが使用されていないときに実行することを推奨します。それに応じてスケジューリング時刻を選択します。

---

- f. このタスクに関連付けるユーザーの名前とパスワードを入力します。「Next」をクリックします。

プログラムを実行するための十分なアクセス権を持つユーザーを選択していることを確認します。デフォルトでは、現在ログオンしているユーザー名が選択されます。
- g. 「Finish」をクリックします。

これで、タスクがスケジューリングされます。

- h. タスクのスケジューリングが正しく行われたかどうかを確認するために、「Start」⇒「Settings」⇒「Control Panel」⇒「Scheduled Tasks」選択し、「Task Exit Status Code」をチェックすることを推奨します。正しく実行されたタスクは、コード 0x0 で示されます。

---

注-終了ステータスコードを確認する前に、スケジューリングしたタスクの実行は完了しているべきです。

---

Windows のタスクスケジューリングオプションについて

は、[http://www.microsoft.com/technet/scriptcenter/guide/sas\\_man\\_lpja.mspx](http://www.microsoft.com/technet/scriptcenter/guide/sas_man_lpja.mspx) を参照してください。

- タスクを削除するには、タスクを選択して Delete キーを押します。
- スケジューリングオプションを変更するには、タスクを右クリックし、「Properties」を選択して、必要な変更を行います。

Backup および Restore コマンドで、マスターサーバーの再起動に失敗する (6398090)

backup または restore スクリプトの実行時に、これらのコマンドを実行したあと、SSL 構成のマスターサーバーの再起動に失敗します。

対処方法: 次のいずれかを実行します。

- 次のメッセージが表示された場合は、キーストアパスワードを入力する。  
Starting the Master Server... This may take a moment.
- マスターサーバーを手動で起動する。

アクセス権の問題でフォルダの追加コマンドに失敗する (6382198)

parents 引数が true に設定されているにもかかわらず、fdb.f.add コマンドを使用したフォルダの作成が失敗します。

-parents true を設定すると、新しいフォルダとその直接の親のみが作成されます。次の例では、フォルダ f1 が存在しないため、失敗します。

```
r_cli -cmd fdb.f.add -parents true -fullname /group1/f1/f2/f3 -u user1 -p user1
```

次のエラーメッセージが表示されます。

```
Unable to save folder /group1/f1/f2/ due to permissions problem. (013011) access denied (com.raplix.rolloutexpress.systemmodel.userdb.FolderPermission folder:129159219047-1139319070874-31478-1381549121 write)
```

これは、ユーザーに管理者権限はないが、そのフォルダを所有するグループのメンバーである場合に発生します。

対処方法: -parents true オプションを使用するときは、新しいフォルダとその直接の親以外のフォルダの作成をコマンドに要求しないようにします。

プラットフォームが `system#any` でない場合にコンテナコンポーネントの作成が失敗する (6408383)

プラットフォームが `system#any` 以外の場合に、`system#container` タイプのコンポーネントの作成が失敗します。次のエラーメッセージが表示されます。

```
Unable to perform the requested operation An unexpected error occurred. Try using the menu on the left or other links on the page to navigate to the page you want and try again.
```

対処方法: 次うちのいずれかを実行します。

- エラーメッセージが表示されたあと、ブラウザの「Back」ボタンをクリックする。ブラウザは、新しいプラットフォームタイプが選択された状態の編集ページに戻ります。これで、編集を継続することができます。
- `system#any` プラットフォームでコンテナコンポーネントを作成してから、プラットフォームを別の値に変更する。

入れ子にしたコンポーネントを再インストールすると、そのスナップショットデータがパージされないことがある

コンテナコンポーネントのインストールによってインストールされた入れ子のコンポーネントによってスナップショットが作成されていると、そのコンテナコンポーネントの再インストールで入れ子のコンポーネントがアンインストールされたときに、リモートエージェント上のそのコンポーネントのスナップショットデータがパージされないことがあります。親のないスナップショットデータがパージされないため、入れ子のコンポーネントがインストールされたリモートエージェントでは、通常より多くのディスク領域が消費されます。

対処方法: 親のないスナップショットデータは、それらを使用してリモートエージェントにスナップショットを作成する単純コンポーネントをインストールし、そのあと、アンインストールするとパージされます。このインストールとアンインストールによって、リモートエージェントはマスターサーバーとそのスナップショットデータを比較します。この結果、リモートエージェントからアンインストールされたすべてのコンポーネントのスナップショットデータがパージされます。

**Red Hat Linux Advanced Server 3** で SSL を使用する場合にシステムがハングアップすることがある

Sun N1 Service Provisioning System を Red Hat Linux Advanced Server 3 で稼働させている場合、Secure Socket Layer (SSL) 接続を使用するとシステムがハングアップすることがあります。

SSL は、`/dev/random` を使用して乱数を生成する `SecureRandom` を使用します。Red Hat Linux Advanced Server 3 には、`/dev/random` のエントロピ収集を妨げるというバグがあります。十分なエントロピが収集されないと、`/dev/random` が乱数を生成しないため、`/dev/random` からランダムデータを読み取ろうとしてアプリケーションはハングアップします。

対処方法: 次の回避策の中から1つを選択します。

- 接続タイプとしてSSLを使用せず、TCP/IPまたはSSHを選択する。
- /dev/randomを削除し、代わりに/dev/urandomに対するシンボリックリンクを使用する。/dev/urandomは/dev/randomよりも安全性に劣りますが、Red Hat Linux Advanced Server 3.0上でプロビジョニングシステムがSSL接続を試みる際にシステムのハングアップは発生しません。

**IBM AIX リモートエージェントの実行テストで execJava でのプランの実行が 10 分間一時停止することがある (6313197)**

IBM AIX リモートエージェント上での CreateManagedServerPlan のプラン実行が、execJava ステップで 10 分の間一時停止することがあります。

対処方法: 回避策はありません。

**「Check In Current」処理で、この処理をサポートしないコンポーネントについてのエラーが報告されない (5063014)**

「Check In Current」処理を使用することで、ユーザーは Master Server リポジトリ内のコンポーネントのバージョンを最新状態に維持できます。Master Server は、ソースホスト上のバージョンに照らしてそのコンポーネントのバージョンを確認します。この確認は、前回のチェックイン時に収集されたコンポーネント位置についてのメタデータに基づいて行われます。

「Check In Current」処理は、すべてのコンポーネントタイプに対して行えるわけではありません。一般に、ブラウザインタフェースを使用して表示できるコンポーネントタイプは「Check In Current」処理が行えます。

「Check In Current」処理をまとめて行う場合、「Check In Current」処理をサポートしないコンポーネントタイプを選択すると、エラーが表示されないまま処理が完了します。サポートされていないコンポーネントタイプについては、「Progress」ダイアログボックスに結果が何も表示されないこともあれば、履歴データとして現れることもあります。

対処方法: 回避策はありません。

**Red Hat Linux Advanced Server 3.0 で SSL を使用する場合にシステムがハングアップすることがある (5084676)**

Sun N1 Service Provisioning System を Red Hat Linux Advanced Server 3.0 で稼働させている場合、Secure Socket Layer (SSL) 接続を使用するとシステムがハングアップすることがあります。

SSL は、/dev/random を使用して乱数を生成する SecureRandom を使用します。Red Hat Linux Advanced Server 3.0 に、/dev/random のエントロピ収集を妨げるバグがあります。十分なエントロピが収集されないと、/dev/random が乱数を生成しないため、/dev/random からランダムデータを読み取ろうとしてアプリケーションはハングアップします。

対処方法: 次の回避策の中から1つを選択します。

- Red Hat プランに Update 3 のパッチを含めて、この問題を修正する。Red Hat のパッチが提供された時点で、パッチをシステムに適用します。Red Hat パッチの詳細は、[http://bugzilla.redhat.com/bugzilla/show\\_bug.cgi?id=117218](http://bugzilla.redhat.com/bugzilla/show_bug.cgi?id=117218) を参照してください。
- 接続タイプとして SSL を使用せず、TCP/IP または SSH を選択する。
- /dev/random を削除し、代わりに /dev/urandom に対するシンボリックリンクを使用する。/dev/urandom は /dev/random よりも安全性に劣りますが、Red Hat Linux Advanced Server 3.0 上でプロビジョニングシステムが SSL 接続を試みる際にシステムのハングアップは発生しません。

#### 通知規則のためにプランの実行速度が遅くなることある (6176243)

基準がわずかしか存在しないか、あるいはまったく基準が含まれない通知規則を作成すると、プランの実行速度が遅いように見ることがあります。プランの実行が遅いのではなく、プラン結果の表示が遅いという可能性があります。

対処方法: 通知規則を作成するときできるだけ多くの基準を使用します。通知規則の基準を増やすと、ネットワーク上でプロビジョニングシステムが送信する通知電子メールの数が減ります。通知電子メールの数が少なくなると、プラン結果の表示が妨げられる可能性が低くなります。

## Windows 2000 プラグインに関連する問題

この節では、Windows 2000 プラグインの既知の問題について説明します。

#### Microsoft の IIS を変更したあとで既定値に戻しても、相違があると報告される (6189034)

IIS 設定のスナップショットを含む「モデルとインストール」タイプの比較を行う場合、ターゲットサーバー上で IIS 設定をいったん変更し、そのあと元の値に戻すと、相違がまったくないにもかかわらず、比較結果に相違が報告されることがあります。特に、親ノードから継承されたメタベースプロパティ (Web サイトの読み取り/書き込み許可やデフォルトのドキュメント設定など) ではこのような現象が発生しがちです。

対処方法: このようなケースで報告される相違は無視してください。

#### Windows IIS アプリケーションをアンインストールできない (6197564)

Windows IIS アプリケーションをアンインストールする場合、Master Server ブラウザインタフェースはアンインストールが正常に完了したというメッセージを表示します。しかし、COM+ アプリケーションは完全には削除されていません。COM+ アプリケーションは、コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」内に残ったままとなります。

対処方法: 残った COM+ アプリケーションを手動で削除してください。

この問題を防ぐには、アプリケーションのインストール時に shutdownDelaySecs 変数の値を増やしてください。

## BEA WebLogic プラグインに関連する問題

この節では、WebLogic プラグインの既知の問題について説明します。

### EJB コンポーネントがアンインストールされない (5109783)

WebLogic で管理された複数の仮想サーバーに配備されている EJB コンポーネントに対してデフォルトのアンインストール手続きを実行し、それらのサーバーの 1 つだけをアンインストールの対象として選択した場合、EJB コンポーネントがそのサーバーからアンインストールされたようには見えません。

しかし、アンインストール後、EJB をアンインストールした管理対象サーバーの WebLogic コンソール上のタブをクリックすると、EJB がもはや存在しないことが正しく報告されます。また、EJB タブをクリックすると、EJB がアンインストールされた管理対象サーバーでは現在 EJB は使用されていないことが報告されます。

しかし、EJB タブでは EJB がその管理対象サーバーに配備されていると報告されます。

管理対象であるすべてのサーバーから EJB をアンインストールすると、EJB は WebLogic コンソールから正しく除去されます。

対処方法: WebLogic プラグインは正常にアンインストールされています。不正表示は無視してください。

### WebLogic Console から WebLogic アプリケーションを削除した場合、スナップショットエラーを表示して比較が失敗する (6186456)

WAR ファイルと Web アプリケーションの設定が登録されている Web アプリケーションコンテナを含む WebLogic Web アプリケーションを配備し、スナップショットを含め、その後 WebLogic Console から Web アプリケーションを削除した場合、Web アプリケーションコンポーネントについて「モデルとインストール」タイプの比較を行うと、次のエラーが表示されます。

```
Could not complete operation on webapp domain.  
No such webapp exists on domain /domain/. (310101)
```

この比較では、モデルと、サーバーに実際にインストールされているものの相違が報告されるべきですが、比較は失敗に終わります。

対処方法: 回避策はありません。

### 比較で、配備されていないコンポーネントについての相違が報告されない (6186457)

管理対象サーバーまたはクラスタに配備されている WebLogic WAR または EJB コンポーネントを WebLogic Console を使用して削除しても、WebLogic Console にはその管理対象サーバーまたはクラスタで WAR または EJB コンポーネントがまだ使用されていると報告されます。このため、管理対象サーバーまたはクラスタの「モデルとインストール」タイプの比較を行っても、相違が報告されません。「モデルとインストール」タイプの比較では、WebLogic Console がチェックされるため、使用中のアプリケーション(ターゲットとされたアプリケーション)は配備されているものとして報告されます。

対処方法: 回避策はありません。

オンディスクの **WebLogic** アプリケーションアーカイブの内容変更が比較結果に反映されない (**6196108**)

Sun N1 Service Provisioning System 5.2 を使用して WebLogic アプリケーションをインストールし、その後管理サーバー上のオンディスク WAR アーカイブの内容を変更した場合、比較結果にこの変更が報告されません。構成に変更を加えた場合には、この問題は発生しません。

対処方法: 拡張機能である generate と prepare を使用することで、比較作業をカスタマイズし、比較を実際に行う前にオンディスクアーカイブをあらかじめ処理することができます。このようなカスタマイズは、高度なスクリプト処理が必要になることがあります。

**WebLogic** 管理サーバーとの SSL 接続がサポートされない (**6203385**)

Sun N1 Service Provisioning System 5.2 で WebLogic 管理サーバーを設定する際に「Secure」チェックボックスをクリックすると、SSL 使用した接続の設定が試みられます。この選択では、WebLogic 管理サーバーへのアクセスを要求する操作を試みるとエラーが発生します。

対処方法: WebLogic 管理サーバーとの接続は、SSL 接続を要求するように設定してください。「Secure」チェックボックスは選択しないでください。

## 地域対応の問題

この節では、英語ロケール以外で Sun N1 Service Provisioning System 5.2 を使用する際に発生する問題について説明します。

**ASCII Latin-1** 以外の文字による検索パターンが正しく動作しない (**6302462**)

Latin-1 ロケール環境では、検索パターンに ASCII 以外の文字を使用しないでください。たとえば、ドイツ語のウムラウトやフランス語のアクセントなどです。検索操作を実行したときに、期待した一致結果が表示されない場合があります。

対処方法: Latin-1 ロケールのユーザーは、検索コマンドの入力に ASCII 以外の文字を使用しないでください。ASCII 以外の文字を使用すると、期待した結果が得られない場合があります。このようなロケールでは、ASCII 文字だけを使用してください。

ロケール固有のソートがサポートされない

Sun N1 Service Provisioning System 内の文字ベースのデータは、標準の辞書目録を使用してソートされます。ロケール固有の照合はなされません。したがって、アクセント記号付きの文字は、同文字のアクセント記号なしのものと同一場所には表示されません。

## アップグレードの問題点

### 「Update Hosts Progress」ダイアログボックスが継続的に更新されない(6383815)

データベースに膨大な数のホストがあるリモートエージェントまたはローカルディストリビュータのアップグレードで「Update Entire Host Network」ボタンをクリックすると、「Update Host Progress」ダイアログボックスが継続的に更新されないことがあります。このダイアログボックスは、現在のステータスを約20分間提供します。ダイアログボックスは更新されませんが、アップグレードは継続しています。

対処方法: 「Hosts List」ページに移動し、「View Current Host Updates」リンクをクリックしてください。

# ◆ ◆ ◆ 第 4 章

## ソフトウェアサポートの終了

---

この章では、一連のサポートの終了について説明します。

- 37 ページの「現在のリリース」
- 37 ページの「今後のリリース」

### 現在のリリース

Sun N1 Service Provisioning System 5.2 リリースで削除された機能はありません。

### 今後のリリース

次の機能は、Sun N1 Service Provisioning System の今後のリリースではサポートされなくなる可能性があります。

#### **Sun N1 Service Provisioning System WebLogic 7.0 プラグイン**

Sun N1 Service Provisioning System WebLogic 7.0 プラグインは、今後の Sun N1 Service Provisioning System リリースではサポートされなくなる可能性があります。

#### **universal ユーザーグループ**

universal ユーザーグループは、Sun N1 Service Provisioning System の今後のリリースではサポートされなくなる可能性があります。registered ユーザーグループを使用すれば、同等の機能が得られます。registered ユーザーグループの詳細については、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 システム管理者ガイド』の「registered ユーザーグループ」を参照してください。



# ◆ ◆ ◆ 第 5 章

## マニュアルに関する情報

---

この章ではマニュアルに関する既知の問題について説明します。

### 『Sun N1 Service Provisioning System ユーザーズガイドおよびリリースノート (WebSphere Plug-In 2.0)』

この節では、『Sun N1 Service Provisioning System ユーザーズガイドおよびリリースノート (WebSphere Plug-In 2.0)』の特定の章への修正について説明します。

#### マニュアル全体

次のテキストが出てきた場合はすべて、バージョン 2.0 ではなく、バージョン 5.1 と読み替えてください。

- WebSphere 2.0 アプリケーションサーバー
- WebSphere 2.0 インフラストラクチャー
- WebSphere 2.0 ソフトウェア
- WebSphere 2.0 環境

#### WebSphere 2.0 環境 (タスク) の設定

「JDBC Provider コンポーネントをインストールする」の手順 7 のあとの文を次のように修正してください。

次のいずれか 1 つのホストに JDBC Provider コンポーネントを割り当てます。

